



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

2月号

令和7年2月10日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子どもたちの育成を願って～



「唯一無二 誇れるリオ日学の教育」

～日本人としての素地を築き、世界に通用する人格の完成を目指して～

文部科学省の定める学習指導要領に日本の教育の水準が示されています。これに基づき学校は知識・理解・思考力・判断力・学びに向かう力を育て、次代を担う子どもたちを育成します。

リオ日学は、これを網羅した上で、1週間の授業時数を工夫して、独自の教育計画を立てています。マルセラ先生のポルトガル語、トム先生の英語はブラジルで学習するからこそ得られる知識です。また、総合的な学習の時間に主題を「ブラジルについて学ぶ」とし、現地理解教育を進めています。

発展的な学習としてICT教育を充実させ、Ipadを活用した調べ学習やプレゼン力の向上・中南米日本人学校とのオンライン合同授業を進めています。

日本人としての素地（読み書き計算・道徳的価値観）を築き、世界に通用する人格の完成を目指して、創意工夫の下、より一層リオ日学の教育を充実させてまいります。

①ICT活用＝中2理科で、ボゴタ日本人学校との合同授業。お互いの研究成果について紹介し合う。リオ＝気候による汗腺の発達、ボゴタ＝高地と心肺機能、血液神経の働き



②CLIL授業＝小6の英語授業でCLILの手法で学ぶ（共同学習により思考を深め、異文化理解により読む書く聞く話す力を育てる）。主題＝ブラジルの果物産地を調べよう。



③オンライン合同道徳授業（サンチアゴ・サンホセ・リオデジャネイロ）＝小3・4年の道徳授業で、自分の意見をノート（手書きまたはキーボード）に書き、画面上で公開して発表し合う。



<2月10日 全校朝会校長講話より>

この金属を見てください。何だと思いませんか？答えはOURO（金）です。先日、はたの商会で買ってきました。もし、みなさんがこれを砂の山から見つけたらどんな気持ちになるでしょうか？かつてブラジルはミナスジェライス・バイーヤ・アマゾンで金が発見され、ガリンペイロという採掘人が掘っていたそうです。砂金は貴重で、川の砂をさらうと小さなひとつかみの砂金に出会えたそうです。

太宰治という小説家があります。中学生は国語の教科書で習う「走れメロス」が有名です。彼は勉強についてこう言っています。

「勉強というものは、いいものだ。（中略）日常生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりとして忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、大事なのは、カルチベートされるということなんだ。カルチュアというのは、公式や単語をたくさん暗記している事ではなくて、心を広く持つという事なんだ。（中略）学問とは、その勉強の訓練の底にひとつかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいけません。そうして、その学問を、生活に無理に直接に役立てようとあせってはいけません。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ！」

（「正義と微笑」より「パンドラの匣」新潮文庫収録）

カルチベートとは、「心を耕す」という意味です。勉強する努力がみなさんの心を耕し、人を愛し、人に優しくなれる尊い価値を持つのです。みなさんの心に残る「ひとつかみの砂金」。川の底の砂をさらった時、ほんのひと粒金を発見した時の喜びを想像すると、素敵なことだと思いませんか？この感動が、みなさんの宝物なのです。太宰治はこうも言っています。「勉強しないものは、かならずむごいエゴイストになる」。エゴイストとは、わがままで、自分の利益だけを求めて、自分勝手な行動をする人のことです。そんな人間にはなつてほしくありません。

去年、中学生にこの話をする、「勉強は嫌い、なぜ勉強するのかわからない、叱られないためにやっている、良い仕事に就くための良い大学に入るため」と答えました。もう一度「ひとつかみの砂金」を探してみませんか？私が最近見つけた砂金のお話をします。リオと日本で観る月の形は同じだと思いますか？宿泊教室でみた夜空があまりに美しく、月を観ながらそんな疑問が生まりました。妻に頼んで月の画像を送ってもらおうと大発見です。日本は下弦の月・リオは上弦の月で、月の模様も逆さになります。感動しました。

日々、勉強でうまくいかないことがあるかもしれません。太宰治は「女生徒」という小説で「明日もまた、同じ日が来るだろう。幸福は来ないのだ。けれども、きつと来る、あすは来る、と信じて寝るのがいいのではありません」と14歳の主人公に語らせています。皆さんの未来はこれから花開きます。前向きに、リオ日学の仲間と学び合い、ひとつかみの砂金を探しましょう。

○ 思い出いっぱい！体験入学 ～ またね！ ～

1月13日（月）～17日（金）、体験入学を実施しました。リオ日学の仲間たちと集い、学び、遊び、昼食を食べ、充実の5日間でした。

特に、15日の家庭科・調理実習では「桜餅・白玉団子（白・よもぎ）きな粉とあんこ黒みつがけ・ほうじ茶・緑茶」を作りました。

2グループに分かれて調理を始め、白玉粉を練りながらよもぎ粉を混ぜたり、炊きあがったもち米を一生懸命つぶしたり、あんこ球をこねて、もち米と桜の葉で包んだり、沸騰したお湯に白玉を浮かべ、冷水にさらしたり、みんな協力して手際よく作業が進みます。

前日の帰りの会で、明日は調理実習だよと伝えると、体験の大杉さん・鳥飼さんは、「明日の楽しみにメニューは言わないでください！」と懇願し、ふたを開けてみれば、2人とも、あんこ・きな粉類の和菓子が大好きだそうです。お弁当の時間にデザートとして実食すると、白玉団子にたっぷりきな粉と黒みつをかけ、しみじみと味わっています。仲間と協力して初めて学校で作る料理は格別な味わいです。「また会おうね!」。この経験がいつかどこかで花開くことを楽しみにしています。



○ 「警察官の仕事」を学ぶ

1月29日（水）、小学部3年生社会科「事件・事故のないまちをめざして～警察の仕事～」の授業に、リオ総領事館領事・大野様をゲストティーチャーにお迎えして、お話を聞きました。

子どもたちの考えた質問に答える形で、日本での警察官としてご勤務された経験をお話してくださいました。



警察官になるためには、警察学校で学ぶ、柔道剣道で鍛える、拳銃の訓練をする、交番勤務、敬礼の仕方など、実践的なことまで丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。

○ 第45回海外子女文芸作品コンクール「地球に学ぶ」

俳句の部
日能研賞

小学部2年

西原さくら

「食べごろだ

リオのバナナは
カナリア色」

*世界で選ばれた12選のひとつです。

佳作

小学部4年

西原蒼太朗

「けん玉や

春の記ろくは

19回」



○ たくさん泳げるようになりました！

1月7日（火）～31日（金）までの間、合計5回（機器の故障で1回減）、フルミネンセクルービーのプールを借りて水泳教室を実施しました。

約1時間各グレードに分かれて、それぞれの掲げた目標に向かって練習します。息継ぎ・手、足のかき方・25mを泳ぐ・距離を泳ぐ・泳法を増やすなど、回を追うごとに上達していきます。人生初の25m完泳・平泳ぎ・バタフライのマスターなど、感動の場面もいっぱい。恒例の25m競争も毎回実施して、満足の水泳教室でした。



○ 柔道を学ぶ



保健体育の授業で武道は必ず学びます。リオ日学は柔道を選択し、音楽室に畳を敷いて、受け身の練習から寝技を学んでいます。袈裟固めの形を覚え30秒押し込め込め込めどうか勝負します。

柔道は相手を思いやり、敬意を払う精神を身につけることにより、心技体が育ちます。日本人の魂をしっかり学んでいます。